

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・全国旅行支援の実施で、紅葉シーズンは元より、終了後も観光客が途絶えず、新型コロナウイルス感染症の発生前以上の人出となっている。
	○	スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は安定しており、単価が上昇していても、買上点数は堅調である。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響はいろいろあるが、り患してもそれほど不安にならないというか、以前より警戒心が少なくなっている。客の動きもそれほど悪くはない。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車供給の制約は続いているものの、少しずつバックオーダーからの売上台数が増加傾向に転じている。新型車受注も堅調に推移している。
	○	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・人流が増えている上に、客単価もアップしている。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援のお陰で売上が回復している。予約は多いものの、従業員が不足しているために、100%まで客を受け入れることができなかつたため、やや良い状況である。新型コロナウイルス感染症の発生前と比較すると同程度まで回復している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向で、客の動きが若干鈍くなり、また、少なからずキャンセルも発生している。しかし、以前ほどの急激な来客数の減少とはならず、宿泊、レストランでは全国旅行支援もあり、コロナ禍前より良い推移である。ただし、いまだに大人数での利用が回復せず、全体的には大幅な回復状況でもない。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援の影響を受け、3か月前と比べて、宿泊客が断然増えている。11月当初から今月の予算をクリアするなど、完全に宿泊は伸びている。また、外国人客の動きも、香港、ハワイ、インドネシア、シンガポールから、何件かグループ客が来ている。一方、宴会に関しては、大型宴会のキャンセルが出るなど、宴会目的の方の来館が減っている。
	○	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・全国旅行支援の開始に伴って、明らかに受注が増加しており、来客数も今までの比ではない。また、より高額な商材を求める傾向もあり、確実に3か月前とは違い、上向きだと考えられる。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・物価高騰が続いており、生活環境は良いとは言えない。その反面、生活費の見直しでサービスへの問合せは増えている。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・全国旅行支援の影響で来客数は増えているものの、売上は微増である。
	○	その他サービス [貸切バス]（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援のお陰で需要がある。
	□	一般小売店 [家電]（経営者）	お客様の様子	・全ての物と言えほどの値上がりムードのなかで、消費者はそれなりの生活をしているようである。販売側では価格の安定性もなく、仕入れの都度、価格の確認をしなければならず、きついところである。
	□	一般小売店 [家電]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えつつ増えている。客の警戒感もあり、動きに余り期待できなくなっている。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上は14%増、来客数は4%減となっている。自治体発行のプレミアム付商品券の効果とイベント再開で、売上は伸びている。店舗周辺で3月末まで道路工事が行われているため、客が来店しにくい状況で、来客数は減少している。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・物価上昇の状況は変わらない。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・冬に向け落ち込む時期ではあるが、全国旅行支援や自治体発行のクーポンの利用で、売上の的には大幅に下がることはなく、落ち着いているようにも見える。	

□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月になって、新型コロナウイルスの新規感染者数がかかなり増えてきているが、客の様子をみていると、余り変化はなく、以前のように、急に減ってくるような状況ではないので、変わらない。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・相変わらず、客足が遠のいている。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・会社全体で集客アップ施策を行っているものの、微増で推移している。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は、前年同月比でほぼ同じレベルである。車両販売では、特に、新車について、年末までの納車予定が立たず、売上に結び付かない。
□	その他専門店 [酒]（店長）	販売量の動き	・飲食店向けの販売が、ここ1週間くらいで再びしぼんできてきている。様々な物が値上がりしている影響もある。販売量は前年よりも多く動いているが、諸経費が上がっているため、利益が取れているかどうかは難しい。トータルで見るとそれほど利益は出していない。
□	スナック（経営者）	お客様の様子	・あつという間の1か月で、いつもと同じような回答になる。地方では客の様子がかとにかく良くない。飲食店は駄目である。何か本当に良い方法はないだろうか。
□	ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・物価高や為替の影響があるものの、業種によって、影響に差が出ていると、客との会話で実感している。また、同じ業種でもやり方の違いによって差が出ている。
□	設計事務所（職員）	来客数の動き	・依頼数は多く、1人が担当する物件が多数になっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第8波襲来のためなのか、各種値上げの報道によって財布のひもが固くなったためなのかは不明だが、人通りも少なく、歳末準備に力が入らない。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・本当に店に客が来なくなっており、売れたとしても余計な物を買わない。今の状態でいくと、段々先細りになっていく。
▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・お歳暮ギフトの受注が、前年より低い水準で推移している。
▲	スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数が前年に比べてかなり減っている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・昼食や夕食時に売れていたデザート類の販売減少がみられ、前年比90%台となっている。
▲	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数が前年に比べて1割以上減っている。
▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第8波が収まらず、行動制限をかけなくても、宴会や会食の機会が減っている。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・さすがにこれだけ新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてくると、客足に影響はある。ただし、全く売上がないわけでもなく、何とか食べていけている。以前のような補助金付きの営業自粛は楽だが、永久に補助してもらっているわけにもいかないので、ここが踏ん張りどころだと思っている。最悪というほどでもなく、やや悪いくらいである。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・8～9月は前年比125%以上と良い状態だったが、10月は105%で、今月も105%くらいで終わりそうである。
×	一般小売店 [薬]（経営者）	来客数の動き	・来客数や売上等が減少し、非常に厳しい状況である。
×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高が響いている。
×	遊園地（職員）	来客数の動き	・3か月前の8月は、3年ぶりの行動制限のないお盆休みや延期となっていたライブイベントの開催等で、来客数が増加傾向にあった。現状では新型コロナウイルスの感染再拡大もあり、来客数の伸びが悪くなっている。

	×	その他レジャー施設 [ボウリング場] (経営者)	来客数の動き	・少しずつ回復に向かっていたが、11月に入り、新型コロナウイルスの感染再拡大となって以降、厳しい状況に逆戻りしている。感染者数が増えれば、来客数は減っていく。
企業動向関連 (甲信越)	◎	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・資材の値上がりは続いているが、受注は順調に伸びている。
	○	食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量の動き	・飲食業関係からの新酒の受注が増えている。また、工場見学者も徐々に増加しており、販売数量は前年以上に増えている。
	○	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・複数の取引先から新規受注や増産依頼が来ている。仕事量の増加に対して人員に不足があり、残業体制を取っている。
	○	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量の動き	・ほとんどの催事は集客や売上が厳しいものの、一部に高額品を購入する顧客も戻ってきている。結果的には前年を多少上回る売上となっている。
	□	食料品製造業 (製造担当)	受注価格や販売価格の動き	・販売価格は値上げしているものの、依然として原材料価格高騰は続いている。
	□	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・値上げを実施したが、光熱費の高騰で利益が出ない。
	□	窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・季節商材受注で多少忙しくなっているが、店頭商材受注は低迷している。ワークショップの予約はやや増加している。
	□	金融業 (調査担当)	取引先の様子	・方向性の判断が難しい状況にある。製造業は年内は受注が底堅い企業のみられるものの、原材料価格上昇で減益となる企業が増えている。非製造業では観光関連が持ち直しているが、人手不足で十分な売上が立てられない取引先が多い。
	□	金融業 (経営企画担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況も予断を許さない状況だが、観光客は戻りつつある。一方で、製造関係に目を向けてみると、景気回復はまだまだ先のようなのである。
	□	新聞販売店 [広告] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・いまだに受注は上昇傾向とは言えないものの、年末年始に向けて、少し動き出している様子がうかがえる。しかし、依然として今後の見通しが立たない状況である。
	▲	*	*	*
×	*	*	*	
雇用関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	求人情報製作会社 (総務担当)	採用者数の動き	・企業が求人に対して積極的になり始めている。ただし、どこも人が来ない悩みを抱えている。
	□	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・職種や条件をかなり絞っており、採用までは至らない。求職者も求人側も条件に折り合いを付ければ良いと思う。
	□	職業安定所 (職員)	それ以外	・今後の新型コロナウイルスの感染状況次第なので、先行き不透明感が強い。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・3年ぶりの行動制限がない行楽シーズンで、宿泊や飲食サービスの求人は、新型コロナウイルス感染症の発生前まで回復してきている。一方で、半導体不足や原材料価格の高騰で、製造業の求人が減少しているため、変わらない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症の経済への影響や、原油や原材料価格の高騰等、経済への悪影響が懸念されるものの、求人数はコロナ禍前の状況に戻りつつある。有効求人倍率は1.4倍台で推移しており、3か月前と大きな変化はない。
	▲	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・全国旅行支援のほか、インバウンドによる観光需要の高まりや自治体発行のプレミアム付商品券等、消費拡大が図られ、サービス業や卸、小売業関連では求人が増加している。ただし、折からの原材料不足や諸物価の高騰、円安の影響などを受けている企業も多く、全体的に景気が上向いているとは言えない。
	×	—	—	—